

～ All for one, One for all. ～

# 光 の 家

## LIGHT HOUSE WITH THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設

東京光の家会報

— 175 号 —

2013 年 11 月 15 日 発行

目の光は心を喜ばせ、よい知らせは骨を潤す。ためになる戒めを聞く耳をもつ者は、知恵ある者の中にとどまる。教訓を捨てる者はおのれの命を軽んじ、戒めを重んじる者は悟りを得る。主を恐れることは知恵の教訓である、謙遜は、榮譽に先だつ。

旧約聖書「箴言」

第一五章三〇～三三節



2013 愛のサウンドフェスティバル (ひの煉瓦ホール)  
光の家愛のサウンド後援会役員の皆様と共に

巻頭言

### 職員に訴える

社会福祉法人東京光の家

理事長

田中亮治

東京光の家では年に数回、全職員の前で、田中理事長が今後の施設運営の方針や職員としての在り方等について語る「職員集い」が持たれています。

今回は、去る一〇月二日に行われた「職員集い」での挨拶の一部を巻頭言として掲載させていただきます。

(1)

今月発行の施設内報「燈心」一〇月号に「東京光の家」は、誰によって支えられ、運用されて行くのかについて語りました。どんな小さな事業体であれ、その内部からしっかりと守り、育て、支える者があって、その事業体ははじめて存続して行くものがあります。これは、最も単位の小さい家庭でも同じであって、外の者が支えて行くものではありません。内部の者、私たち自身が自分の問題として、真剣に取り組むことで、はじめてその事業体が、しっかりと健全な姿で存

続出来るのであります。この場合私たちお互いが最も注意しなればならない事が幾つかある訳ですが、私が永年に亘つて経験し、考えている事を、今日は訴えたいと思います。

(2)

言うまでもなく、私たちの毎日の仕事は個人個人で、勝手にしているではありません。決められ、割当てられた仕事を、基本的にはチームを組んで仕事をしており、チーム内一人ひとりの力の和が総合されて、全体の成果が出てくるのであります。

チーム内のある個人が、どんなに能力があると自認し、自分



勝手に仕事をしたとしたら、まず、チームの和がくずれます。チームの和がくずれても全体の仕事がよくやり通される事など、あり得ません。こうなりますとチーム内各メンバー間の信頼関係もくずれ、すべての仕事が無ムズに行きません。信頼関係が無くなるのですから、「あの人のやる事なんか信用できませんよ。何でも自分勝手にやるんだから」となってしまう。この結果、日常の仕事が何となく他人事(ひとごと)のようになってしまい、お互いの仕事に身が入りません。心が入りません。精神が入りません。

分の訳の分からない、うすつべらな精神状態に押し流されて生きているようなものです。これでは、人生の喜びどころか、「どっちに転んだって大した違いなどありませんよ」と言つて、最初から自分自身を軽くしているようなものです。私から言わせると何だか自分をもてあそんでいるようなものです。他人であれ、自分自身であれ、もてあそぶような気持ちで、人生を全うすることは、決して出来るものではありません。

(3)

私はいつも、このように人生を堅苦しく考えますが、実は堅苦しいままで堅く考えないといけません。人生とはもともと厳粛なものなのです。馬鹿にしてはいけません。そのような態度をしたなら、とんでもない報復に見舞われるものです。人生とはそういうものなのです。

.....(二部抜粋)

# 会報 五言

一、あつという間に秋を迎えた。厳しい暑さでいささか体力を消耗したが、自然の営みは妙なるかな。これで少し体力は回復するかも。

一、先般の台風一八号は全国各地に大きな災害を残したが、毎年毎年起きる現象だが、これ人間の英知でもどうにもならないものだろうか。

一、それにしても、春夏秋冬、春夏秋冬と繰り返される日本は何と恵まれた自然環境だと言うべきか。感謝・感激である。

一、感謝・感激！もう一つ感動！この恵まれた豊かな社会にあつて、三つのすばらしい言葉を忘れては不可。そんな事、絶対不可。

一、もう暖房の時期を迎えた。幾ら寒いと言つても電力節約の事も考えよう。佳き冬を祈る。

# 旅に思う

社会福祉法人東京光の家 理事・評議員 杉山 吉昭



交通機関が発達していなかった頃、徒歩での旅はとても辛いものだったに違いない。

『可愛い子には旅をさせよ』は『かわいいと思う子供には、辛く苦しい旅をさせて、世の中の大変さを経験させなさい』と言う教えですが、辛い旅を世間に出ることになぞらえての言葉です。本来の『旅』と言う意味では、今は交通機関が発達して旅は辛いものではなくなりまして、交通機関に限らず、便利な世の中になったものです。あるとき、『旅』と『旅行』

とはどう違うのか？ふと思ったことがあり、調べてみました。

旅とは

『住む土地を離れて、一時他の土地に行くこと。旅行。』

旅行とは

『徒歩または交通機関によって、おもに観光・慰安などの目的で他の地方に行くこと。たびをする』と広辞苑には書かれています。

他の辞書を調べても『旅行』旅に行くこと』は共通しています。しかし、私には『旅行』旅でいいとは思えません。

あくまでも私見ですが『旅』と言う言葉は『旅行』の二文字には無い情緒的な響きがあり、郷愁も感じます。決めるのは大まかな行く先だけで日程など定めず、ぶらりと出かけてぶらりと帰って来る。そして、そこに

は人と人との触れあいがあり、観光よりも触れあいを重んじる。旅とはそんなものではないかと思えます。

一方『旅行』は、行く先と日程を決め、観光が主な目的で出かけるもの。人との触れあいには有っても、時間に制限が有っては旅の比ではないと思います。

私は一年に一〜二度海外に行くのですが『旅』でも『旅行』でもなく、スポーツの遠征試合のためで、一週間ほど遠征先に滞在します。

競技のクラス分けとしてハンディキャップのクラスも有り、人数は少ないですが車イスの方達も外国から遠征してきます。その方達には、移動は勿論、競技中も含め他選手との交流や現地での滞在にはサポートする方が欠かせません。

先日、富士電機の横の交差点を車で通る際、信号待ちしている白杖の方を、数歩後ろでじっと見守っている方がいる

の気が付きました。直感で、出歩き慣れない東京光の家の利用者が一人で外出出来るように訓練していて、職員の方が少し離れて見守っているのだと思いました。

冒頭で、今では交通機関が発達し、旅は辛いものではなくなったと書きましたが、便利になったと言え、障害世の中になったとは言え、障害を持つ方々にとってはまだまだ一人歩きするには困難が多く、サポートの重要性をここでも再認識させられました。

歩行困難な方にとってはユニバーサルな建物も増え、電動車イスで行動範囲が広がりましたが、視力に障害を持つ方々にとっては白杖と点字ブロック程度しか思いつかず、周りの方のサポートも欠かせないでしょう。

近い将来、東京光の家の視力に障害を持つ方々も、サポート無しで一人歩きだけでなく、一人旅が出来る世の中になる事を願っています。

各施設のトピックス  
指定障害者支援施設 光の家新生園  
運動会 想いが笑顔に

去る九月一九日(木)、旭が丘中央公園にて「新生園運動会」が開催されました。

秋とはいえ、台風一過の強い日差しが残る中、紅白に分かれ、大玉送りや渦巻き競走など、各競技で競い合いました。神愛園栄光園に加え、今年度から新たに就労ホームの利用者が参加し、楽しく盛り上げてくれました。

また平日開催にも関わらず、多くの保護者が参加してくださいました。二人三脚では保護者と一緒に行う利用者の嬉しそうな笑顔が印象的でした。応援合戦は、保護者に採点をしていただきましたが、公平に勝ち負けをつけなければという気持ちと、やはりお子様がいる組を勝たせたいという親心の間で葛藤があったようでした。その他、徒競走で全力疾走する利用者も

応援する姿、デモンストレーションで演技する利用者を見つめる優しい眼差し：保護者の皆様のご家族への想いが深く感じられました。

今後も支援者の一人として、ご家族の想い、利用者の成長に寄り添い、支援にあたりたいと思います。

(光の家新生園 訓練課

廣瀬 武生)



声援を力に全力疾走!

指定障害者支援施設 光の家栄光園  
音楽の秋を満喫

去る九月三〇日(月)、国立オリンピック記念青少年センターにて、第三九回「みんなの音楽会」が開催されました。そこに光の家栄光園音楽クラブは、バンド名「ミックスベジタブル」として参加してまいりました。天候にも恵まれ、秋晴れのさわやかな一日でした。毎年、東京ミュージックボランティア協会の主催で行われており、音楽クラブのメンバーは、この大きな舞台で演奏する事をとて楽しんでしています。音楽が大好きな利用者一一名が集まり、月一回のクラブ活動に加えて、開催一ヶ月前には、毎週水曜日に特別練習の時間を設けて練習してきました。演奏曲は、利用者が好きな曲、演奏したい曲をみんなて話し合い、「さんぽ」「世界に一つだけの花」の二曲を演奏しました。出番までの間、緊張している様子でしたが、お互いに声をかけあって緊張をほぐし、本番では息のあった演奏ができました。利用者のみなさんは、音楽の秋を最高の舞台と演奏で満喫する事ができました。

(光の家栄光園 生活支援課

中倉 大)

また平日開催にも関わらず、多くの保護者が参加してくださいました。二人三脚では保護者と一緒に行う利用者の嬉しそうな笑顔が印象的でした。応援合戦は、保護者に採点をしていただきましたが、公平に勝ち負けをつけなければという気持ちと、やはりお子様がいる組を勝たせたいという親心の間で葛藤があったようでした。その他、徒競走で全力疾走する利用者も



力を合わせ、良い演奏会になりました

救護施設 光の家神愛園

外出する楽しさを

神愛園では九月から十一月にかけて外出行事を行なっています。この行事は体力・嗜好別にグループを分け、秋の外出を楽しみ、社会見聞を広げるといふ事を目的としています。毎年、利用者の希望に沿ったグループを編成し楽しんでおり、今年度は施設内食事会・日野市内食事会・カラオケ・ハイキング・デパートの五つのグループに分けて行われました。神愛園も高齢化や障害の重度化が進み、外出する事の出来ない利用者も多く、昨年は三〇名もの利用者が外には行けず施設内食事会に参加しておりました。その為、今回はより多くの利用者に外に出掛けて頂くようと計画してきました。職員配置を増やし、車を利用する事で今まで歩行や体力面に心配があり、ハイキングへの参加を

躊躇していた四名の利用者の希望が叶い、施設内食事会においても二〇名という少人数でご馳走を楽しむ事ができました。この外出行事を通して、少しでも外出する楽しみを持ち続けられるよう、これからも良い企画を考えていきたいと思えます。

(光の家神愛園 支援課

富樫 麻也)



カラオケで思いっきり楽しみました

障害者通所就労施設 光の家就労ホーム

素敵な店員を目指して

東京光の家五番目の施設である光の家就労ホームが本格的に動き出して、早半年が過ぎました。一階のkitchen & Cafe「Canan(カナン)」

では近くの企業や地域の方、他の福祉施設の方々など多くの方に「ご好評いただいています。本格的な接客が初めてだった利用者もお客様との触れ合いを通して社会性を身につけ、技術面だけでなく、精神的にも成長できるようにと頑張っています。

普段二階で軽作業などの仕事をしている利用者も「レストランで働きたい！」と希望者が多いため、仕事の幅を広げられるようにと一階の実習を始めました。外部の方とのふれあいが多い分、身だしなみや言葉使いなど普段以上に意識をして仕事に入ってもらっています。制服を

着て帽子をかぶるだけでも嬉しいような表情で、やる気も増すようです。

今後も選ばれる施設になれるよう研鑽に励み、利用者が生き生きとした人生を送れるように一生懸命努力し、支援していきたいと思えます。

(光の家就労ホーム 就労支援課

主任 情野 直人)



一日でも早くレストラン業務が出来るように頑張ります

社会福祉法人 東京光の家 正秋バンド チャリティーコンサート

愛のサウンドフェスティバル  
**新生をめざす**



ひの煉瓦ホール

[日野市民会館]

**2013.10.5 sat.**





正秋バンド「愛のサウンドフェスティバル」新生をめざす」が一〇月五日（土）、「ひの煉瓦ホール」にて開催されました。

正秋バンドは平成元年に結成し、今年で二五年目を迎えました。この四半世紀の区切りの年、新たに若い二人のメンバーを加え、正秋バンドは二名となりました。新メンバーの長井啓子さん（シンセベース）は「正秋バンドに入ることが夢でした」と語ります。中西良輔さん（シンセサイザー）は「音楽の興味を広げ、素晴らしい演奏が出来るように頑張りたい」と張り切っています。このフレッシュな新メンバーと共に、今年の正秋バンドは新生をめざして音楽活動を続けてきました。

コンサート当日は小雨の降る生憎の天気でしたが、熱心なお客様が開場前からお見えになり、今年も満員の大盛況でした。舞台では『群青』『ハナミズキ』『津軽平野』等の曲が演奏され

新人二人も大活躍。今年光の家新生園のサービスを利用しての盲目的ピアノリスト梯剛之さんの友情出演もあり、素晴らしいピアノ演奏を披露してくれました。司会はお馴染みの高田敏江さんです。会場のお客様からは、沢山の温かなご声援と激励の拍手を頂いて、舞台と客席の気持ちが一につながる感動のコンサートとなりました。

今回は、大坪冬彦日野市長、奥住日出男日野社協会長、愛のサウンド後援会役員の方々をはじめ、日頃から東京光の家と正秋バンドを応援してくださる多くの関係者の皆様のご来場も頂き、心から感謝申し上げます。

また、福祉協力券の売上金の一部をチャリティーとして日野市社会福祉協議会に寄付させて頂くことも出来ました。

新生をめざす「正秋バンド」。これからも支えてくださる皆様への感謝の気持ちを忘れずに頑張つて参ります。

第三六回 チャリティバザー

地域に根ざした行事に

去る、一〇月一四日(月)に

第三六回目のチャリティバザーが旭が丘東公園にて開催されました。光の家のバザーは、毎年体育の日に行われています。三〇年以上、毎年欠かさずこの日に行っているため、「体育の日は光の家のバザー」と、だいぶ地域の方々に来場者の数が増えているように思われます。今回は天候にも恵まれたことも相まってバザー開始から終了時まで、今まで以上に多くの方が来場され、大盛況のうちに終えることができました。

そして、今回もバザーの為に一〇〇名以上のボランティアが参加してくださり、又、保護者の方々には前日準備から当日の販売まで多大なご協力を頂きました。その他にも地



喫茶コーナーの売り上げも絶好調でした

域の方々から多くの提供品を頂き、今回も四〇〇万円以上の収益を上げることができました。昨今、こういったバザーを実施するところが少なくなる中で、このように盛大な行事として継続できることは、地域の方々、保護者、ボランティア等多くの方々の支えと協力のおかげと感謝しております。

(バザー委員長 関口 仁朗)

第3回

光の家オープンハウス

見えない人のくらし

地域への

貢献活動として、また、光の家に来ていただけるとしるようなイベントとして、第三回



目を迎えた『光の家オープンハウス』。アイマスク体験や点字体験などの企画に加えて、昨年の来場者からの要望を受け、ヘルパーの体験やアイマスクでの歩行の体験も取り入れました。来場者からは「視覚障害の方の生活が体験できる」と好評でした。地域で光の家が貢献できる事として、継続したイベントになっていくよう目指しています。

地域貢献活動室 室長 山本誠太郎

創立六〇周年記念

第六一回

全国盲人福祉施設大会

昭和二八年九月に産声を上げた、日本盲人社会福祉施設協議会(以下・日盲社協)は今年、創立六〇周年を迎え、その記念大会が九月にグランドヒル市ヶ谷にて開催されました。

今回の大会では、日盲社協が真に視覚障害者に必要な団体となるために、創立者岩橋武夫がどのような思いで日盲社協を立ち上げたのか、加盟施設が日盲社協に何を求めているかを確認する事が出来ました。

(光の家神愛園

副園長 藤巻 契司)



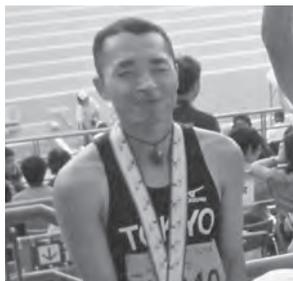
光園で製作した点字付きカレンダーが記念品として配布されました

スポーツ祭東京  
2013

東京に多摩に島々に  
飛ばたけアスリート



一〇月二日(土)から一四日(月)まで、国内最大の障害者のスポーツの祭典である「第一三回全国障害者スポーツ大会」が東京都にて開催され、東京光の家からは二名が東京都の代表選手として出場しました。



スタンドで祝福を受ける光の家神愛園の鈴木鉄也さん

メイン会場の味の素スタジアムで行われた陸上競技に出場した光の家神愛園の鈴木鉄也さんは、投てき競技のジャベリックスローで二八m四八cmを投げて金メダル、五〇m音響



念願の金メダルを獲得した光の家新生園の高橋繁さん

走でも八秒〇五と東京都記録を上回るタイムで金メダルを獲得しました。また、駒沢体育館で行われたサウンドテーブルテニスに出場した光の家新生園の高橋繁さんもフルセットの熱戦の末、見事に念願の金メダルを獲得することが出来ました。二名とも普段のトレーニング、競技に臨む高いモチベーションが大いに活かされた輝かしい結果でした。

(光の家神愛園 支援課 係長 武村 弘幸)

光の家就労ホーム



セルフ式レストラン カナン

地域の障害者が生き生きと働く場を提供しています。そして、地域との交流の場となれるよう、美味しい食事とスイーツを作ってお待ちしています。クッキーの注文も承っております。是非、ご相談下さい。

東京都日野市旭が丘3-6-6 ●TEL...042 (589) 5411  
●営業時間...11:00~16:00 ●定休日...日曜日



寄付者名簿

平成二五年七月一五日  
一〇月一五日

公益財団法人

森村豊明会様

金一、六〇〇、〇〇〇円  
(古字プリンター及び周辺機器購入)

中野区民生児童委員協議会

副会長 小野武様

土屋正和様 三〇本

佐藤農園様 二〇kg

石井みち子様 三〇玉

川井秀子様 三〇kg

松田功様 整経台 一枚

河村正様 音楽CD 四十五kg

浅石常勝様 米 六〇kg

井川幸雄様 メロン 一五玉

船橋敬様 梨 三〇kg

小西慶亮様 ブドウ 五〇kg

綾木潔様 さつまいも 五kg

高橋正一様 すだち 一kg

高倉清治様 バナナ 二九kg

米倉清治様 梨 四〇kg

高木啓一様 梨 二五kg

百瀬省一様 柿 三〇kg

百瀬省一様 アコーディオン 二四kg

百瀬省一様 柿 二四kg

百瀬省一様 アコーディオン 一台

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

海外研修

二つの国から見たこと



九月一八日から二五日までの八日間、ソウエルクラブの海外研修（デンマーク・イタリア）に参加させて頂きました。国情が全く違う国の福祉現場だけでなく、国民性や政策の特徴が施設・街にもあらわれていました。

コペンハーゲンの建築物は石造りの整然とした街並みに、車・自転車・歩道が区別され、



視覚障害の国立リハセンター（デンマーク）

国民の考え方は明確で、『自己責任』がキーワードです。高福祉・高負担を国民が選択。満足度が一番高く、全国民が背番号制で納税・就労・就学・健康・老後と人生のライフステージを安心して過ごせる制度になっています。見学した国立の施設はスタッフの人員も多く、医療・福祉の専門家が充実しています。



国立リハセンタースタッフの熱心な説明を受けました

一方、イタリアは現金給付。保護者が設立・運営している見学先は、『お日様の光』という意味の知的・肢体不自由利用者の住居・通所施設でした。日本と同様、人懐っこく、友好的な挨拶を返してくれました。「この施設は、決して無駄ではなく、人間の価値を見出す場所、本来の姿に近づく所であり、大切な場である」とのコメントに共感しました。



ローマのスペイン広場にて（中列右）

主任 永池 香

〜あとがき〜

冷気一段と深まり、いよいよ秋も深まってまいりました。お元気で過ごしでしょうか。

さて今回も光の家会報一七五号をお届け致します。

今回は光の家の杉山理事に寄稿をお願い致しました。

「旅に思う」という題で旅は旅行と違って人の触れ合いを感じるのとことでした。ご自身の旅の経験によって旅の良さを是非、東京光の家の利用者にも味わって欲しいとの温かいお言葉を頂きありがとうございます。

今回号では「愛のサウンドフェスティバル」の特集記事を組みさせて頂きました。正秋バンドは中西さん、長井さんの二名を新たに迎え一名で新生をめぐりてコンサートに臨みました。

お陰様で大勢の方にご来場頂き勇気と感動を与える事ができましたことを心より感謝申し上げます。

（常務理事 石渡 健太郎）

発行 千一九一〇〇六五  
東京都日野市旭が丘一七七一  
社会福祉法人 東京光の家  
電話 〇四二（五八）二三四〇  
FAX 〇四二（五八）九五六八